



教育グループ 4

平成 27 年度 第 4 回 議事録

【年間テーマ 人材育成と抑制の適正と管理 】

平成 27 年 10 月 14 日提出

日付	平成 27 年 10 月 10 日 (土)			
場所	天神福ビル 9F		記録者名：廣崎 大悟	
出席者 (敬称略)	若杉病院 古川 忍	水城病院 内田 明美	北九州湯川病院 山田 穂積	
	泰平病院 寺嶋 美由紀	丸山病院 松本 真悟	福西会南病院 廣崎 大悟	
テーマ	抑制に対する家族へのアプローチ			
結論	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族へのアプローチとして各病院の取り組み <ul style="list-style-type: none"> ① 入院時に抑制に関する説明及び同意書への署名 (3カ月に1度) ② 1週間 OR 2週間に1回カンファレンスを行い、家族来院時に現状報告 ③ 抑制に対してのパンフレットやアンケート (無記名) ・ 現場と家族の抑制に対する意識差及び問題点 <ul style="list-style-type: none"> * 家族側 * 抑制に対して使用している物によって受け捉え方が異なっている 4本柵→受けいられる ミトン→仕方ない センサーマット→抑制とっていない 車椅子テーブル→受け入れがたい (*アンケートの集計結果で多かった意見) 			

	<p>抑制はしてほしくないが安全や世間体（迷惑をかけたくないなど）から仕方なく受け入れている事が多い</p> <p>*現場側*</p> <p>抑制をしないよう、してある場合は外す事が出来るようにしている</p> <p>定期的なカンファレンス及び抑制の使用状況を観察、評価</p> <p>抑制使用時間の短縮、代替品を用いる</p> <p>問題点</p> <p>患者によっては抑制を外すようにしていくまたは外す事が可能な場合があるが、家族が外す事を拒否している場合が見受けられる</p> <p>→安全面や世間体の考慮、外した際のリスク及び責任は誰が取るのか</p> <p>医師の同意が得がたい</p> <p>→外した際の責任回避</p> <p>抑制に関する書類（同意書や経過観察の評価表など）の多さ、煩雑さ</p> <p>→家族の来院がなかなかない、多忙な医師から署名を貰うまでに時間がかかる、評価項目の多さ</p> <p>対策及び決定事項</p> <p>家族に対して根気よく説明し、抑制を外した時の状態を確認してもらう</p> <p>抑制評価の書類に家族からのコメント追加し、内容を理解してもらう</p>
次回討論項目	抑制に対してのスタッフへの教育指導

抑制廃止とケアの質を高める会 事務局

E-メールアドレス info@fukuokakenryo.jp

(FAX.092-691-3961)